

「最優秀賞は豊明高校」。審査結果が読み上げられると、涙があふれた。「上手な高校ばかりだったので、優勝できるとは思っていなかった。応援してくれた人への感謝で胸がいっぱいになった」

高知市であった高校生の漫画日本一を決める「全国高等学校漫画選手権大会（まんが甲子園）」の決勝戦。同校は、お天気キャスターのまねをした姉が、弟の前で、天気ではなく母親の機嫌を予報する様子コミカルに



甲子園



描いた「あしたのきげんよほう」で挑んだ。「子どもでも大人でも分かりやすい、温かみのある作品」と高い評価を得た。大会には五人で出場し作業を分担。出題テーマに沿ってその場でアイデアや絵柄、せりふなどを考えた。「うちの部は上下関係がなく、すごく仲がいい。チームワークのよさが勝利に結びついたのでは」と振り返る。中学二年のときに少年漫画を読んで魅力にはまり、自ら描くようになり、「好きなキャラクターに、自由な表情をさせられるのがたまらない」「私も父の機嫌を『予報』して、話しかけないことがある」とクスリ。「来年も出場し、連覇を目指す」と意気込んだ。二年生で十六歳、愛知県知立市。（坪井千隼）